美濃陶磁歴史館だより

美濃陶磁歴史館　☎(55)1245

連続コラム

―光秀の源流を探る―
第1回　土岐氏と土岐明智氏

明智光秀は、土岐氏の一族である土岐明智氏の出身だとされています。では、その土岐氏とは、そして土岐明智氏とはどのような氏族だったのでしょうか。今回は、土岐氏と土岐明智氏の始まりについてお話いたします。

土岐氏は、清和天皇の孫経基に始まる清和源氏の3代目源頼光の子孫です。頼光から6代目の光衡が、一日市場（瑞浪市）に館を築いて土岐郡を本拠とし、「土岐」を名字としたことに始まります。源頼朝や足利尊氏は、頼光の弟頼信の子孫ですから、鎌倉・室町幕府の将軍も一目置く由緒ある家柄でした。光衡は鎌倉幕府御家人となり、その子光行は浅野（土岐市）に、光行の孫頼貞は、浅野の対岸の大富に館を移しながら、美濃国内に着々と勢力を築いていきました。

頼貞の代に土岐一族は大きく飛躍します。「土岐桔梗一揆」と呼ばれ団結を誇った土岐一族は、足利尊氏軍の主力として鎌倉幕府の打倒から室町幕府の樹立に至る争乱で大活躍、美濃国守護を拝命した頼貞は、名実ともに美濃国の主となりました。足利尊氏は、土岐氏を「御一家（足利一門）の次、諸家の頭たるべし」とし、「土岐絶えば是（足利氏）絶ゆべし」と誓約するなど、土岐一族をとても大切にしたと伝わります。

頼貞が没すると、その遺領は子や孫に分割相続されました。九男頼基の子彦九郎頼重は、早世した父に代わり土岐郡妻木郷（妻木・下石・駄知・曽木・細野・柿野・笠原・滝呂）と多芸庄の一部（大垣市多芸島・養老町飯ノ木）を相続します。この頼重が「明智」を名字として「土岐明智氏」を興すのです。頼重に始まる土岐明智氏は、妻木郷を本拠に動乱の室町時代を生き抜いていくことになります。

下す　土岐彦九郎頼重

早く領知せしむべき、美濃国妻木郷
多芸庄内多芸嶋榛木郷地頭職の事

右祖父土岐伯耆守頼貞法師　法名存孝、
今月十七日譲り状に任せ、知行せしむべきの状、
以下件の如し

暦應二季二月十八日（1336年）

源朝臣（花押）（足利直義）

足利直義奥上署判下文（土岐家文書）
群馬県立歴史博物館蔵